

フードバンク活動～学生の貧困はコロナ前からあった、根本的な解決を

民青同盟 神屋さんが語る～第 11 回社会保障の現場からの報告を聞き考える会

4月16日(土)、第11回社会保障の現場からの報告を聞き考える会を開催しました。前回から約1年ぶりの開催となりました。今回のテーマは、フードバンク活動を取りあげました。話題提供者は、民青同盟件委員長の神屋高志さんです。司会は自治労連の伊藤さんが行いました。代表幹事の武内さんが主催者あいさつを行いました。

あらかじめ神屋さんに質問をお伝えしておいてそれに答えて頂く形ですすめました。



1) フードバンクの取り組みに関わるようになったきっかけは？

●他県でフードバンクを行ったことがきっかけで民青同盟の全国方針になった。学校授業料半減を求める運動もすすめていた。

2) コロナ禍で大学生のバイトが減らされたり、授業が受けられなかったりといった事が起こった事はよく聞かすが、大学生の今の様子は？

●日ごとに置かれる状況は変わっている。バイトは相変わらず厳しく、シフト減らされたり、雇い止めになったり。授業は対面が基本になったが、教授によってはオンラインで行われることもある。部活動は一律に禁止されているが、高校野球は開催されているのになぜという疑問も。不満はあふれている。フードバンクで対話をするようにしている。

3) 学生へのフードバンクが生まれた背景を知りたいです。ここ最近、広がってきた支援に感じますが、広がり一方で現在、どのような課題もあるのか教えてください。

●1日に1食しか食べていないという学生はコロナ前からもそうだった。もともと貧困問題をかかえている。学費の軽減とか給付型奨学金だとか根本的に変える運動をしないと先が見えない。

参加者からは、大学側に掲示してくれるよう申し入れてはどうかというアドバイスを頂きました。

農民連から水田活用交付金の見直しで農家つぶしが加速する危険がある問題、民医連から過去2回のフードバンクで地域住民の貧困の実態が見えてきた話し、新婦人からフードバンク活動に参加した感想が紹介されました。

まとめで、地域の貧困問題に取り組む運動の横の連帯、ネットワークをつなげること、行政に対して貧困問題に対する要請、交渉を行っていくことが課題として提案されました。